

手と手をつないで



No.355

やまぐち ひろゆき
山口 裕之

(マザー・アース人権啓発研究所主宰)

「みんなでいっしょに 幸せになりましょう」 学びとつながりの豊かな 行き来を通して

新年度がスタートしました。地域や職場で会合や研修会が花開いていることと思います。私は福岡市で31年間小学校の教職員として働いた後、2年前から土笛(オカリナ)の演奏とともに、人権に関する講演を行う啓発の仕事に専念しています。

そのテーマとしてよく希望されるのが「一人ひとりが大切にされる人権のまちづくりをめざして」です。この内容でお話をする時、私は「一人ひとり」という言葉の意味にこだわります。この「一人」という言葉の中には①だれ一人置き去りにしないまちづくりをめざすという意味、そして②この「一人」には参加者ご自身そして皆さんの大切な人などが含まれているということことです。

●新たな時代の流れに対応する学びを

さて、二十一世紀に入って、かつて想像もしなかったメディアやインターネットの発達により、人はどこにいても即座に情報や思いを伝えたり、共有したりすることができるようになりました。その一方で、人権に反する悪意のある内容が、顔が見えない状態で簡単に飛び交うようになりました。

このような発達した技術の力を正し

く、効果的に使うのは、わたしたち次第です。わたしたちは、お互いに伝え合う情報や思いの内容を、「誰か傷つけていないか」立ち止まって想像し、大切に選びたいものです。また「幸せに生きるってどういうことだろう」ということを考え、追い続けること、そして、一人ひとりの人権が当たり前前に大切にされる文化が根付くことを目指していく時代に入っています。つまり一人ひとりが発するものの「質」が問われていくことになるのです。

「みんな一人ひとり違う」ということ、自分と違うことは「おかしい」ことではないことをベースに、一人ひとりの違いに学び、認め合いながらつながっていく。そのためには、時代の流れに応じた正しい学びの積み重ね、そして相手への伝え方・表現の工夫が必要です。

●人とのつながりが生み出すから

私は学校のPTA活動で、数多く人権教育を扱う委員会に所属しました。はじめは見ず知らずの関係だった委員のみなさんが、活動の中でお互いの子育てのこと、生活の悩み、人権問題に関する疑問を素直に出し合う中で、素敵につながり、自分たち

の思いを出し合っていく姿にふれてきました。また、部落差別をはじめ一切の差別をなくすことをめざす識字学級でも、お互いの生活経験や差別・被差別の体験を語り合い、結びつき、共に学び合う関係をつくっていく営みに出逢ってきました。そして学習の場だけでなく、生活や人生レベルでも一生の宝物となるような関係が、数え切れないほど創られてきました。



各地域・大宰府市では、人権問題を考える機会となる学びの場が設定されています。これらの講演会は、主催者、参加者一人ひとりの問題意識や生活感覚、思いや願いを重ね合わせ、つないでいく工夫により、よりよい、そして長く続く学習の場へと発展させていくことができます。

このような学びと人とのつながりが、一人ひとりが大切にされる人権のまちづくりの歩みが力強く進んでいくのだと思います。これからともに新たな学びとつながりを求めつつ、「みんなでいっしょに幸せになりましょう」というめあてのもと、新たな人生のステージを生み出していきましよう。